

◆BLOG

今日（6月15日）の各メディアは、いっせいに「民主・自民きょう合意へ」「民主・自民は大筋合意」というニュースを伝えている。野田佳彦首相が期限としたのが、今日（15日）。紆余曲折があったが、実務者レベルで決着する見通しなのだという。

となれば、今後の増税路線は決まったも同然。日本国は、今後、重税国家になるのが間違いなくなった。消費税増税だけが騒がれているが、じつは所得税も相続税も上がる（13年度税制改正に先送り）。そうすると、「働いても報われない」というムードが社会に蔓延し、日本はますます衰退していくだろう。日本は、本当に社会主義国家になってしまった。

合意が決定的になったとはいえ、「ただ民主党内調整で異論が噴出する可能性がある。21日の国会会期末までの衆院採決を首相が決断できるかが焦点だ」などとメディアは続けているが、今日までのことを見れば、交渉はすべて茶番。「大いにもめている」という見せかけショーが続き、ついに増税案が可決される。そういう流れが、ほぼでき上がった。

最後はバンドワゴン効果、「勝ち馬に乗れ」でみんな増税

いまの日本に、真剣に日本の将来を考えて行動する政治家はほぼいない。マニフェストにこだわっている民主党議員、「増税絶対反対」の小沢一郎氏、同じく増税反対の自民党議員などがあるが、いったん「流れ」「空気」ができれば、もうみんな「増税一色」になる。「仕方ない」となる。

それが、日本という国だ。今日も、議員たちはいろいろなことを言っているが、結局はみな賛

成する。反対派もやっても「棄権」までだ。

最終的には「勝ち馬に乗る」というバンドワゴン効果が働く。日本人は、そういうメンタリティだ。

増税してもなにも解決されない。問題が「先送り」されるだけ

現在の「空気」ができたのは、いろいろな意見が噴出したとはいえ、その背景に「日本は危ない」というムードが、じょじょに大きくなってきたからだ。空前の円高、パナソニック、ソニーなどの日本の電機産業の崩壊、貿易赤字の拡大など、「これはなにかおかしい。このままでは持たない」という感じが、日本社会全体に広がった。

しかも、日本の財政赤字は危険水域に入っている。欧州危機が深まれば、次は日本の番なのは、もはや誰にでもわかるようになった。

増税してもなにも解決されない。3%、5%という段階的な消費税増税ぐらいでは、プライマリバランスさえ達成できない。国債金利が少々上がったときの利払い費ぐらいにしかない。「社会保障と税の一体改革」と言っているが、社会保障費は年々1兆円増えるから、そちらに回して、なんとか数年やりくりする。その程度の話で、もう半年以上も政治が空転しているのが、本当に不思議だ。

ともかく、現在の問題を「先送り」したいという、財務省の悲願の増税がやっと達成される、それだけの話だ。

空気の醸成に決定的な『週刊文春』小沢スクープ記事

この「空気」を決定的にしたのが、現在発売中の『週刊文春』（2012年6月21日号）が伝えた小沢一郎の人間性を疑わせるスキャンダル記事だ。松田賢弥氏の記事のタイトルは、《「愛人」「隠し子」も綴られた便箋11枚の衝撃 全文公開小沢一郎 妻からの「離縁状」》となっていて、小沢一郎がいかにか和子夫人をないがしろにし、その結果、夫人が「小沢は放射能を恐れ国民を見捨て逃げ出したので離婚しました」「愛人・隠し子もいる」という内容の手紙を、有力後援者に出さざるをえなかったが、詳細に書かれている。

このスクープ、もし本物なら、近年の政治スクープのなかで最大級のもののなのは間違いない。以下は、「週刊文春ウェブ」から、そのイントロ部分だ。

《便箋11枚にも及ぶ長い手紙の中で、和子夫人は、昨年3月の東日本大震災後の小沢元代表の言動について触れ、「このような未曾有の大災害にあって本来、政治家が真っ先に立ち上がらなければならない筈ですが、実は小沢は放射能が怖くて秘書と一緒に逃げだしました。岩手で長年お世話になった方々が一番苦しい時に見捨てて逃げだした小沢を見て、岩手や日本の為になる人間ではないとわかり離婚いたしました」と書いている。

手紙では、小沢元代表の愛人や隠し子の存在についても触れている。8年前に隠し子の存在がわかったとき、小沢元代表は和子夫人に謝るところか、「いつでも離婚してやる」と言い放ち、和子夫人は一時は自殺まで考えたとも記している。》

「これで小沢は終わった」「小沢中心の政治報道も終わった」

この記事の破壊力はものすごい。すでに「これで小沢は終わった」と、私も何人かの人間から聞いた。「小沢シンパもチルドレンも総崩れ状態になっている」と伝え聞いた。「増税反対もなにもない。これで、国民のことなど眼中になく、政局ばかり考えている政治家だとわかってしまったから、もう着いていく人間はいない。小沢中心の政治報道はこれで終わった」と、知り合いの新聞記者は言った。しかし、大新聞は、文春報道も、こうした状況もまったく伝えていない。これは、小沢事務所が記事を事実無根、捏造としているからだ。

はたして、記事は真実なのか？手紙の主の和子夫人がメディアに語らなければ、真相はわからない。しかし、いずれにしてもこのタイミングで、この記事は小沢一郎（および増税反対派）に決定的なダメージを与えたのは間違いない。

ギリシャ総選挙、G20サミット、いまや世界中が問題を「先送り」

17日には結果が見えているギリシャの総選挙があり、その後、EUのさらなる支援策が発表される。18日からメキシコで開かれる20カ国・地域（G20）で、各国首脳金融危機に関するメッセージが出る。IMFの強化策ぐらいしか出そうにないが、それでも抑止力はある。

そうして、アメリカもQE3に踏み切る可能性をほのめかす。

続いて、21日には日本で増税が可決される。このように、動いていくとは限らないが、こうなっていかなないと、世界経済が恐慌状態に陥る可能性がある。ともかく、いまや世界中が問題を「先送り」するようになった。